

わいふ

132号

1974・11
12



もくじ

「わいふ」全会員に

必読願いたい事 高木由利子記 2

「わいふ」11周年記念集会報告 岡部節子記 3

【社会の窓】

女の曲り角 渡辺 富子 4

ああ、塾戦争 坂元 礼子 6

【「こんにちは。お元気ですか」】
永堀のり子さんの巻 小山ヤエ子記 5

【文芸】

ある青春(34) 津堂 健治 8

【お便り】

はじめまして 足達 啓子 9

わいふに思う 太田 千帆 9

掃除も仕事のうち 喜多 和子 10

近 況 坂元 礼子 10

” 川中 重雄 10

表紙絵の言葉 平田恵美子 7

会計報告 7

★「わいふ」はあと一年でピリオドをうちたいと思います。

★最後の一年、会員一人一人、悔いを残さぬよう、全力投球したいものです。

★「わいふ」を踏み台に、それぞれが新しく創造的な活動に飛躍されますように……

大部分の会員の方には突然のことで、驚かれた方も多いと思います。

話は記念集会(11月10日)の前にさかのぼります。

来年の何月から分りませんが、郵送料が大巾に値上げになります。わいふも必然的に値上げをしないとやっていけないことになります。印刷費もずっと据置きなので少し上げるとしたら、どれ位の会費にすればやってゆけるだろう、又、わいふは色んな面で今のままの状態が良いのか、そんなことを記念集会の前に編集部で一度じっくり話し合いたいということで、10月19日午後7時から10時過ぎまで当日集まれた小山・岡部・後藤・十日市・高木の5人のメンバーで話し合いを持ちました。

人間は、ともすれば、自分の手に持っているものの価値に気づかずに、それを失ってはじめて、その持っていた意味に気づくことが多いものです。あるいは「わいふ」もその例外ではないかも知れません。しかし結論から言いますと、私をはじめとして他の4人の人たちも、色んな悪条件をのりこえて、これ以上わいふを積極的に発行しつづける気持がうすらいでいることを認めずには居れませんでした。もうそろそろ「わいふ」を卒業してしまいたい、皆の中にそんな思いが強かったのです。

一つの創造的な「もの」を創り出す時そこには、これをやることは、自分が本当に生きたという証しでもある、というような、盲目的なまでの強い信念が必要であると思います。

あたりまえの普通の主婦が、毎月きちんと「わいふ」という雑誌を発行してゆくことに素朴な満足を感じ、どんな小さな反響にも心をときめかしていた頃もたしかにあったのに、毎月発行することが至上命令のような義務感となり、ものを創り出しているという喜びと充実感の得られぬままに、ここ数年を過ごしてきたのではないだろうか——そんな重苦しい反省が、せつかくここまで続いたのにおしとかが、あとで後悔するのでは——などという感傷はるかに強い力で押しのけてしまふのです。

会うは別れのはじめとか、はじまりのあるものはいつかは終りがあるもの、「わいふ」のいいだしつべの私が、その終りにも責任を持たねばならないとは、以前からず——と考える続けてきたことです。

そういえば、今までも何度もわいふの危機があつて、もうこれまでかと思われようなことがあり、そのたびに何とか続けていきたいという強い会員の意志の力でここまで続けて来れました。或はまたかと思われる会員の方もいらつしやるかも知れません。でも今回は少し今までと事情が違ふようなのです。

わいふの生れた動機というのが、そもそも、育児にかかりつきりで物理的に(或は精神的にも)家の中にとじこめられた若い主婦が、何とか自分たちの思いのハケ口を求めた所から始まつたのであり、それ以上のもので、以下のものでもなかったと思います。でもさすがに十年も過ぎると、その頃の若い主婦も、ようやく育児から解放されて、これまでのわい

ふを踏み台に、何やら「たんなる思いのハケ口」にのみとどまらない何かにチャレンジしたいという人も現われ、あるいは今は、はじめたばかりの仕事に集中したい人や、皆の生活の中でわいふの占める割合というもの、ぐんと縮小しているように感じられるのです。

今までのわいふの危機は、経済的理由とか、編集員の手が足りないとかいったことが中心でしたが、今回はそういった物理的なものに加えて編集員の精神上的問題が加わっていますので、やはりこの際やめてみたいものは、やめてみるより仕方がないだろうという事になったのです。

やめる方向で意見がまとまつてから、どのような形で、いつやめるかが問題となりました。わいふがいつまでも続くものと安心して、そのうちに原稿を書こうと思っている人もあるでしょう。長年会員でありながら、一度も投稿されたことのない人もあるでしょう。こんなことを書きたいと心の中で案をあたためている方もあるでしょう。そんな人たちにも原稿を書くチャンスが必要なので、今すぐやめるのではなく、あと一年間と期限を切つて、その間全力投球ががんばつてみましょう。発行回数を二カ月に一度、合併号として送料値上げをカバーする。大体そんな所で意見が一致しました。

さて、わいふの記念集会の当日、出席された皆さんの前で、編集部としての意向を話しました。毎月が無理なら季刊になつても良いから是非続けてほしいという強い希望も出しました。反面、まあそういう事情なら一応やめてみるのも良いという意見もあ

りました。

私は今、当日出席されていた人たちのその時の気持がともよくわかる気がします。とても御不満だったろうと思います。

「御意見をお聞かせ下さい」と言われて色々述べた所で、すでに編集部としての結論はほとんど決まっているのですからでも「私が全責任を持ちますからわいふを続けましょう」という人があらわれない限り、やめる以外に道はなかったのです。

それにしても、卒業という聞こえは良いが、途中で投げ出してしまったのではないかという後めたさがどうしても心に残ります。又、最近わいふに入会して下さった方々には本当に申し訳ないと思う気持ちでいっぱいです。

わいふは特に目的を持たない集まりでした。ですから会員の中には色んな人がいます。もっと深く物事をつつこんで調べたい人、そんなめんどろなことは苦手で、ただ楽しい心の通った集まりを期待していた人、関心を持つ対象も様々なことでしょう。わいふは解散になっても、わいふを母体に、今度はいろいろの目的をもった集まりがたくさん生れたら、わいふも無に終わらないうちと思えます。

最後の一年、本当にわいふを自分のものと考え、自分のために書くという努力を会員一人一人のみなさんに、是非おねがいします。

毎月開いていた例会はとりやめて、その日を編集会議にします。特に編集部員を決めずにみんなが編集員になって、い

ろんなことをいっぱい書ける為の話合いの場になりたいと思います。たくさんおしゃべりしたいと思いますので、どんなでも御自由においで下さい。おまちします。

(高木記)

11周年記念集会報告

出席者

石川美智子 板谷美佐子 上田 吟子
大村 輝子 後藤美和子 小山やエ子
鈴木 芳子 杉本 輝子 田和 明子
十日市睦子 浜谷美枝子 日比野 都
藤本巳代子 森 かなえ 和田 好子
岡部 節子 高木由利子

11月10日(日)わいふ11周年記念集会が、仁川団地集会所で開かれました。絶好の「わいふ日和」となり、17名の参加者がありました。自己紹介と近況報告に次いで日比野都さんの講演がはじまりました。

「今ある自分がどうして生まれたか、何故講演などをするようになったか……」を一人の女として、夫に死別という最大の不幸からの出発を、明るくユーモアたっぷりの口調で話され、会場には終始笑い声が続いていました。それでいてグツと胸を打つお話でした。「わたしは何も知らなかったの……無知な女だったからできたの」と口くせのように謙虚におっしゃっていましたが、一つのきつ

けを踏み台にされて、御自身の内にもとからもっておられたものに次々と新しいものをプラスされ、何事にも意欲的に取り組まれる姿勢には心から尊敬の念を禁じ得ません。

十年前のこと、御病気がちだった御主人と生前にお二人で話し合われたこと、又、御遺書で「最愛の妻だった、とても幸せだった」とお二人だけのかたい絆、約束があったにもかかわらず、その御主人の葬儀には親類縁者から全く無視、疎外された妻の憤りを手紙文の形で書かれ、「天国のとうちゃん、こんにちは」の題で出版されました。それが東芝日曜劇場でTV化されたが、そのドラマが原作ものをうたい文句にしながら内容は全く別の作り話であり、TV局いやマスコミというものの御都合主義で勝手に改造、捏造されていくさまを怒りを込めて語られました。

最初はドラマの原作者という虚名で講演に引つ張り出されたので、自分があるがままの話、本当の話をするしかなかったとおっしゃっていましたが、真実を実感をおこめてのお話に、多くの聴衆の共感を呼んでいるのだと思います。

この日の講演は、全く日比野さんの御好意で実現しました。本当にありがたうございました。

もし皆さんの参加していらつしやるPTAやその他のグループで日比野さんの講演をお聞きになりたいと思われる節は、どうぞ日比野さんまで直接お申込み下さい。お体があいているかぎり、気軽に応じて下さると思います。

さて、そのあとは前頁で述べたように、わいふをあと一年で廃刊するという編集部の意向を打ち出している話合いの後、バザーに移り、色々楽しい買物をしました。

バザーの収益は二三、四二〇円。

出品協力者は、出席者全員その他、森きぬえさんと平田恵美子さんが品物をこつづけて下さいました。

その他寄付金として

森 かなえ

浅間満佐子 五千元

印南千鶴子 千円 をいただきました。

皆様本当にありがとうございました。東京から参加して下さいました和田(矢崎)好子さん、来春には御主人の転職で京都に移って来られるとか。大村さんのお手製の人参入りケーキ。毎年見る毎に大きくなられていく石川さんのお嬢さん、今年も又色々な思い出と共に、記念集会も終わりました。

来年は、わいふ最終刊のサヨナラパーティを秋に開きたいと思っています。

◆おわび

印刷所の都合やら、原稿がなかなか集まらなかったことや、わいふ発行が一カ月遅れまして申し訳ありませんでした。今年はこの号で最後になると思います。次号のわいふは頁数に制限なくどんなに原稿が多くても全部載せる予定ですので、どしどし御投稿下さい。おまちしています。

会費未納の方御送金下さい。(ただし来年10月分以上払過ぎないよう……)

女の曲り角

奈良県 渡辺 富子

お肌の曲り角をとうの昔に過ぎ、三十五才は女の曲り角というが、その曲り角にさしかかって、来月には三十六才。十日市さんの「三十六才のゆううつ」凄く実感として分かります。白けた気分になるのは、しめつけられる様な時勢の悪さばかりにあるのでもなさそう。

結婚当初、私の旦那は世界一の男性で三十五才ぐらいでは、世の中で堂々と自分を出しきっていて、私はその側に寄り添っているだけで、ほのぼのとした幸せが伝わってくるだろう。子供が生まれ、その子供が二才半ぐらいで、字を覚え始めたりすると、若しかしたら、天才かも知れないなんて、(畑も畑なら、種も種なのに)夢みていた。夢みれる余地が、果てしなく広がっていたみたい。「夢破れて、からすの足跡あり」が、三十五才ではなからうか。ウエールに覆われ乍らも、眩しく輝いているであろう未来も、一枚また一枚とウエールが、はがされてくる。眩しさも、ぼつとかすんでくる。夫が社会で活躍の場を広めれば広める程、家庭の中で、居心地の良くなった座を暖めるのに一生懸命になっている自分だけが、大写真になって見えてくる。子供の天才らしさも、段々怪しくなってくる。それでも、かすみがかかった眩しさを見果

てぬ夢として追い求める。それが三十五才ではなからうか。

結婚当初、同僚の定年真近の先生に、「渡辺さんはいいいね、若いから、」と云われた。彼女は二十八才で戦争未亡人になり、残された幼子三人を女手一つで育て上げた。色白で目鼻立ちのすっきりした方でした。さぞ若い頃は、多くの男性を悩ませたのではなからうかと云える風情の持主で、素敵な方でした。田舎から出てきた私に何やかやと教えて下さり、私も母親に甘える様な気持ちで、いつも彼女の後について歩いていました。林間学舎で枕を並べて眠った夜、彼女は、ふと「女であることを意識しなくなってきたら、つきものがおりた様に気持ち軽くなったわ。」とつぶやいておられた。若輩の私は、女であることを意識しなくなるって、三十五才ぐらいかなと、想像して尋ねてみた。周辺の三十五才ぐらいからの中年の女の人達が、すっかり女らしさを棄てたのではないかと思える厚かましきを感じていたので、ところが意外「そうね、最近よ、五十才ぐらいになつてから知ら、」と。

「うへー」と心の中で驚いたのを覚えています。

私も三十五才になり、女であることを

意識しなくなるどころか、意識過剰気味で、自分にも愛想が尽きてくる。

「五十才ぐらいかしら、」と云われた美人の先生のかすかな恥じらいを見せたほほを思い浮べています。

わいふを始められた高木さんが、昭和十三年生れとかで、会員にも、三十五才前後の方が多く様です。皆さま、この女の曲り角、どの様な曲り方をされているのでしょうか、ちよつぱり気になります。

先日、朝日新聞に「あなたもやってみませんか、」と体力テストが、五つ程出ていました。目をつむつてかかしの様に片足でバランスをとったり、腕立伏せ、上体起しなど簡単に出来るものばかり、

「お母さんも、やってみるから、時間計ってね。」と子供に頼み、先ずバランスからやってみた。一秒、二秒、一分、二分三分まだ立っている。

「もう止めてよ。」と子供に云われて足をおろす、標準は、二十秒もできたらいいとの事、「すごいな。」と子供達にはやし立てられ、気をよくして他の種目に挑戦、腕の力が弱いので、腕立伏せだけは標準以下だったけれど、他は全部すいすい合格、集計してみると あなたの体力は、「二十才から二十二才」

「わーい」と、家の中をはね回る。子供達も嬉しそうに、「わーい。わーい。」とついて回る。

「まだ若いのよ、」と意気揚々と主人に伝える。

「何だ、いい年令をして、精神年令は十代並だな。」と云われて、ぎゃふん。小学の時から運動は、苦手で、成績もいつ

も普通、さてこの若さ(?)の秘訣は。はたっと思ひ当たること一つ。最近のインフレ下、この店に大根の安いがある

と聞けば、自転車荷台に子供二人を乗せて、かけつけ、あの店のミンチ肉が特価であると知れば、電車に乗ってまで、はせ参するいじましい生活防衛の副産物ではなからうか。それに最近始めた、隣の空地の畑作りで、鍬を振り上げていることも体力作りに役立っているのではなからうか。

伊勢神宮に、参拝するのだと、田舎から、ひよっこり現われた父が、帰り際、「富いくつになった?」と聞いた。

「三十五よ、もうすぐ三十六。」すると無口な父は、

「女ざかりだな。」と、めっきり増えた白髪を撫で上げて、帰っていった。

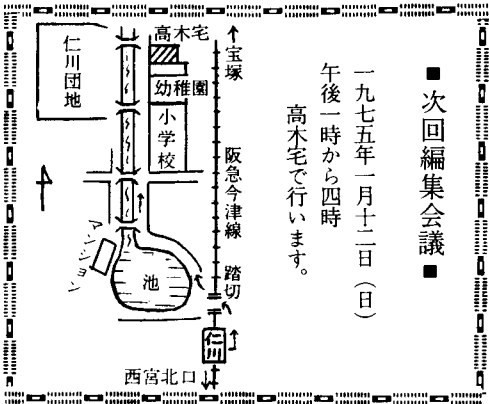
「女ざかりか、」と何度口の中、つぶやきながら、父を見送っていた。

次回編集会議

一九七五年一月十二日(日)

午後一時から四時

高木毛で行います。



大阪、天王寺のバス停で、一粒二粒、手のひらにうけていた雨が、万代東で下車すると、雨足になっていた。

信号の向う側に傘をさしてたずねでいる人がある。まずは初対面の挨拶。

受話器ごしの言葉のひびきから感じとっていた、ふつくと柔らかな印象にちがいはない。

案内されたダイニングキッチンに一足ふみ入れた途端に、体を包んだのは、パツと華やかなムードと色彩だった。

その中を艶のいい三毛猫が、闯入者におびえたのか、あわてて横切った。

テーブルクロスもスリッパもくず入れも食器棚の飾りも可愛いチェックに統一されている。

「このテーブルすこしがタガタでしょう。十何年前に身障者の方からプレゼントされたものなんです。」

たび重なる引越して、食器棚のつぎ目が、タガタになってしまつて、この布をはりました。くずかごも廃物利用なんですよ。新しいものにかえるよりは古いものを大切にしたいので……」

というわけで、チェックの柄がこのキッチンでの主役をつとめる。

日曜大工ならぬウィーク大工(?)が大好きで、網戸なども女手でトントンと仕上げてしまふ。

今、大学一年の一人息子さんが使っている勉強机は彼が小学校入学の時に買った一枚板のごく平凡なもののままで、足掛け十三年、椅子の高さだけで調節して来た。

当節の若者が、これに文句をつけない

のは、このお母さんの影響が小さい時からあったせいに違いない。

「この子が小学五年生ぐらいから、まあいろいろとアルバイトをやってきたことです。収入もほしかったんですけど、やみくもにいろいろなことに興味があつてしなかったんです」

大きなホテルの客室をセツトする仕事、会社の事務、百貨店の売場係、歯科医の受付補助手、あとまだいくつか。

「パートでは家庭用品売場だったので、自分の経験が生かして楽しかったです。ねえ。張り切つてやりました。」

歯医者さんのところも、医療器具の名称や扱い方を次々と覚えてゆくようこび

「二んには。お元気ですか」

生活をいろいろるアイディアに囲まれて

永堀のり子さんの巻

があつて良かったんですけれど……。

やつと府が認めた老人医療の無料化に對する医者の冷淡さ、儲からない老人治療に手をつけたがらない営利主義に腹が立つてやめてしまいました。」

「私達の年代は職場で要領よく立ちまわれませんか。」

きめられた時間より早目に行き、ちょっとそのあたりを整理しておく。時間中は、あれこれ気を配つて、フルに動く、帰る時間になつても、ハイそれまで、とはなれず、何となく後始末までする。

それにくらべて若い人達は全く合理的で、支払われる賃金分だけ計つたように働きますねえ」

成程 中年主婦に共通したお人好しな勤勞への思考なのか、責任感なのか。

ここ数年來、激増したパートで働く主婦のこの権利意識への鈍さが、使用者には非常に都合が良く、案外好評なのか

も知れぬと、お互い中年主婦の顔を見合せて苦笑い。

目下は、テレビのモニター一本やり。週四日ほど受け持つ番組があつて、その時間帯は釘づけされる。

「モニターは一応意見反映という制度なんですよ。適当に聞きおこした限界があつて、やりがいのある仕事とはいえないんですけれどね。」

主人が心臓の病気で再度入院をくり返

実感を持つてきましたね。

やっぱり淋しいですねえ。

老後のこと考えてしまいますよ。

このままで行けば、国の福祉政策にも絶望を感じますし、趣味を楽しむ落着いた老後なんか考えられませんね。

これから先、子ども達を含めて一体どうなつてしまふんでしょうか」

老後の心配を話題にするには、まだ若すぎる頃の線が一瞬ひきしまる。

あと十年もたたぬうちに「わいふ」の一人一人が逃げようもなく直面しなければならぬ問題でもある。

老後の保障問題から物価高への腹立ちに移り、角栄殿の悪口となり、ここで、ひとときこの冬の灯油の値段や、標準価格米はほんとうにまづいかどうかなどの情報交換となる。

雨にぬれた先程の三毛猫の様子を伺いながらソロリと入ってきた。

「裏庭にいつばいギンナンがなっているんですよ」

そのギンナンのつまつた袋をお土産に玄關口まで出た時、ここにも一工夫こらされていた。重ねたスリッパが汚れないようにとのアイディアが生かされた自作のスリッパ掛けである。

本降りになった雨の中、どこかでの再会を約してバスにのる。三毛猫の待つ、手づくりの家庭へ向つてその人の傘がゆつくり揺れるのが見えた。

ときれていました会員のインタビュー、今回は永堀さんよりお役に立てばとお申し出があり実現いたしました。

(小山やエ子記)

長女の彰子は小学校四年になる。

最近、私の顔さえ見れば、何か習わせ
てほしいと、うるさく言うので、じゃあ
誰か習っている人に、いろいろ聞いてみ
て、何を習ったらいいか自分で決めなさ
い、といっておいた。

早速、算数塾と英語塾に行っている人
のことをきいてきて、英語の方は、同級
のT君のお母さんが教えているが、T君
の話だと、今は多すぎてだめだ。算数塾
はいろいろあるけれど、Yさん達の行っ
ているところがいい。A・B・C...と別
れていて一年生はAからやる。だけど、四
年だからDに入れるとは限らない。三年
程度のCからやらされるから、優秀な人
はどんどん上っていくけれど、いつまで
もCの人もいる、ということ、おもし
ろそうだから、そこに行きたい、という
Yさんが先生にたのんでくれたら、一度
お母さんと一緒に来てもらって下さい、
ということなので、私も、娘のために、
初めて塾というところをのぞいて見るこ
とにした。

中田カウス(漫才家)の家を少し上っ
たところだということで、坂道を上って行
くと、この辺ではわりあい古くからある
らしい家で、小庭を抜けると、プレハブ
の塾舎があった。その表に立って、ごめ
んなさい、と二、三度。

学校から直行したらしい小学生が、次
々と部屋に消えて行く。その騒々しさに
声もとどかないのか、先生は出て来られ
ない。仕方がないから、しばらく見学す
ることにした。

四畳半と六畳間程の二つの部屋に、ざ

つと二十五人、ひしめき合っている。昔
家庭で使っていた和裁台のような、細い
机を二つくっつけて、それに向い合せに
四人並んで座っている。与えられた印刷
した問題を、熱心に解いている。部屋が
いやにうす暗いナ、と周囲を見まわすと、
電気は、天井の六十Wくらいの蛍光灯が
一灯。もう一部屋は四十Wくらいと思
う。あれでは、隅っこに座っている子供
達の目が悪くならないかしらと、ちょっ
ぱり心配していると、この家の主が現れ
た。Yさんから聞いています、というこ
となので、それでは、とこちらから質問
させていただいた。

●という方法でやっておられますか

ああ、塾戦争

茨木市 坂元 礼子

「一日に用紙を三枚やらせます。それを
次の時まで採点しておいて返すのです。」

後で見せてもらった用紙によると、B5
版くらいの大きさで、計算問題がほとん
ど、確か裏面も印刷してあったと思う。

●週に何回ですか

「三回用意しておいて、そのうち二日来
ればよろしい。月謝は二千円です。」

●学校での教え方と一致していますか

「ここに通ったからといって、すぐ学校
で問題が解けるとか、よい点が取れると
いうものではありません。あくまで、中
学に行くための下準備で、小学校の基礎
を身につけるためのものです。」

勿論、私もそういう答を期待していた。
但し、教え方が同じか、というのは、色
んな方式を採用しては、小学生はまだ、
どの方法でやればよいか、とまどってし
まうだろう。例えば水道方式なら一貫し
てそちらも水道方式で、という意味で問
うたまでだ。現在の算数教育は、我々が
子供の頃教わったやり方と、ずい分変っ
てきている。子供が、ちょっと解りにく
いから、と質問しても、不用意に教えて
やれない面が多いことに気付く。子供と
一緒に一から勉強していけばよいのだが、
雑用が多くて、とか何とかいいながら、
逃げてしまいうから、結局、高学年になれ
ばさっぱりわからない、ということにな

ってしまう。そんな時、もし専門家の人
にちょっとアドバイスしていただいたら、
算数だらけいも少しは「おもしろさ」を見
出してくれるのではなからうか、と淡い
期待を抱いて門をたたいたのだが……。

その時ちょっと気になったのは、「中
学に行くための」というコトバ。不用意
に出たのかもしれないが、そういえば、
この辺の小学校からも、灘、甲陽あたり
の私立中学校へ行く人もあるときいてい
る。

●質問を受けたら、その子供の能力に合
った指導をされているのでしょうか
「質問が出ることは殆んどありません。」

計算問題ばかりで、答は決っていて、簡
単ですから。」
この時私は、ああこの方はシロウトだ
な、と思った。

機械的に計算ばかりやっていけば、確
かに計算だけは早くなるだろう。『応用
問題を、たとえ一時間に一間でもいいか
らやっているうちに、その子供は、いろ
んなことを学びとるに違いない』間違っ
ているかもしれないけれど、そう考えて
いる私には、実に残念に思われた。

今の学校では、(総てが)そうだとはい
わないが、出来ない子が出来るまで待っ
てやるなどと、のんびりした教え方をし
ているところはないだろう。ならば、塾
と称するところは、(学校での学習の補足
と考えてよいなら)なぜもっとゆつくり
と、「考える子」を育てようとしな
いのか、時流だから、と誰もかも同じやり方
で急いで、いったい疑問を感じないのだ
ろうか。誰がいったい、算数だらけの子
を救ってやるのだろうか。

いつも思い、不満としていることを、
ここまで確認しに来てしまった気がした。
念のため、もう一度、

●失礼ですが、現場で教えられたご
経験は。一瞬、間をおいて、
「いいえ、私、実は英語(中学)なんで
す。でも、算数の方がやりやすくて。答
がきまっているから、簡単ですし……。」
もう一度、簡単だからとおっしゃっ
た。

どうも、お忙しい時間を、有難うござ
いました。拝見したところ大勢いらっし
やるようですし、お願いするかどうかは

いづれYさんを通じてお返事させていただきます。先手をとった若輩の私に、四十才はとうに過ぎたと思われるその女先生は、「まあ、ごらの通り多いもので

すから、せっかくのご希望に添えなくてお気の毒です。また欠員がでたら連絡します」と、かろうじて面子をお保ちになった。

●ところで、今、何人くらいおられますか？

「さあ……ネエ……」

下足の入り乱れた土間での立ち話であったが、丁寧に礼を述べて、去りぎわに何気なく問うたことに対しては、返事がもらえなかった。私のみたところ、四十人は下らないだろう。入れ替り立ち替り印刷してある問題を解くために、この坂道を登ってくる。公文方式か何か知らないけれど、決った解答用紙をみて、赤ペンで○×をつけてさえいれば、たいした努力を払わずとも、月々、皆がどんなお金という重宝なものを運んできてくれる。

せめて、「どうぞ、こんな手狭な所ですが、子供達の姿をみてやって下さい。」そして、「ああ○○ちゃん、そこ、よくわかったわね。」「○○君、そのところは△△からもう一度考え直してみてもどうかしら。」「○○ちゃん、もうひと思ね。」と、子供達の間を廻り歩いている姿に会いたかった。仮に、同じように来訪者をほったらかしておいても、そんな人ならどれほど安心できることだろう。

一度きりで、総てをみたつもりになるほど、私はごう慢ではないつもりだが、

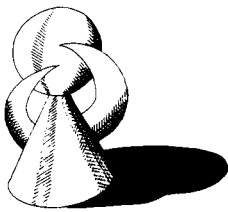
今度ばかりは、最初土間に立った時からこの塾に娘をあづける気持はなくなっていた。

彰子は、ずっと黙っていた。

帰る路々、坂道を下りたところで、「あ、中田カウスの家の窓にお人形が写っている。」という娘に、わらいながら、「わざわざこんなところまでお散歩に来なくていいんじゃない？」というのと、「エレクトーンをやり直してもいいし、絵でもいい。」絵が、ちつともうまく描けないから、という。

私の心の中は、種々の想いが渦巻いている。何もやらせてくれない、ケチな親かと思っているだろうな、と、せっかくやる気を起している彰子に、すまない気がしてくる。それでも、子供にとってほんとうに「よい師」が見つかるまで、その時まで、私はケチな親でないかなければならないのだ。

フツと吐息がでる。



表紙絵の言葉



神戸市 平田 恵美子

重陽花

菊の花は、中国で重陽花などの異名もあり、不老長寿の靈草として愛され、物語などに残っているようです。また、日本でも、菊酒を飲んで長寿を願う災いを払うなど、九月九日の「菊花の宴」が、平安時代には、特に盛んに催されたようです。

毎年秋が来ると、あちこちの公園の菊人形、またデパートや駅前展示場には腕によりをかけた作品が見られます。見事な懸崖作り、気品を備えた大輪の花、これも菊かと驚くような盆栽作りなど足をとどめて見て歩くのも秋の日の楽しみでもあります。

だけど、庭の片隅に、何のささえもなく、倒れそうで倒れることもなく、ひっそりと咲き続ける小菊にも、親しみを覚え、心なごむようです。

近所の理科の先生が、菊作りがお好きで、春のさし芽、鉢かえ、芽かきなど、丹精こめて、立派な菊を育てられ、毎年道行く人を立ち止まらせまます。私も眺めて安らぎ、描いて楽しむうちに、秋も深まって来るようです。

会 計 報 告

	6/11~7/10	7/11~8/10	8/11~9/10	9/11~10/10	10/11~12/10
収 入	前月繰越 39,173 会費 36,165	会費 29,530	会費 28,330	会費 16,700	バザー収入 23,420 カンパ 6,000 会 費 16,720
支 出	127号	128号	129号	130号	131号
印刷代	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000
送 料	7,515	6,755	5,700	6,875	6,145
残 高	42,823	40,598	38,228	23,053	38,058



ある青春

(34)

大阪市 津 堂 健 治

昭和廿年四月

校庭の樹木に緑が湧え今年も百数拾名の新生を迎える。未だ子供々々とした現役組の殆んどは彼等の出身中学の制服だが中には浪人数年で健治より年嵩の連中も居て服装はまちまちだが新しい角帽が薬学生になった身分を示していた。

その日健治は友のSに相談をかけられた。Sは関西出身者で組織されるクラブの会長で新生の歓迎会をやりたいが名案は無いだろうかと言うのだ。

「無いな、君が会長なんだから、適当に考えてくれよ」

冷淡な返事をしてSを鼻白ませてしまった。

終業のベルが鳴った斜陽の学舎、健治はドオムの校庭に長く映えるのをみつめて、配給の煙草をくゆらした。

N薬生として新しい青年が集まったが彼等は此の時局下に真実勉学出来るのを期待しているのだろうか？更に、こうした状況で歓迎会もなからう。

夕闇がせまりおきまりの警報が響くがいつもの悪魔の旋律だ、校門を出て「戦慄の街」をゆつくり歩く。もう馳けるのにも飽いた。

空襲を恐れるのも馬鹿らしくなった、人は生まれれば早きにしろ遅きにしろ死に

向つて直進している、犬儒的な皮肉を弄すれば「門松や冥途の旅の一里塚」というではないか。

学問により自己形成するのは確かだが徴兵という事態で人間ならぬ単なる「数」でしかない徒刑場が控えているのを忘れてはなるまい。

逸川と向いあつた暗い灯下管制の灯、健治の語るのに彼は応じた。

「君は少し考え過ぎだぜ、俺にしてもいつ召集されるか知れないけど100%戦死するとは決まってるやね」

「けど志と違つた「生」は「生ける屍」や」

「そこまで言うなら日本人の殆んどがそうなのではないか、俺の兄貴だつて軍隊こそはいらなかつたが気のすすまぬ軍需兵器の研究をやらされている、芸術畑や文化関係の人も総じて戦ひに直結する仕事しかやれない、けどその中から少しでも明るい未来を探そうとしているのだ、じつと現状に耐え乍ら」

「すると俺は甘いのか」

「だろうね、君が戦争や軍隊を嫌うのは自由だが体験者としては未だ失格だから議論じみた批判するのはどうかしら」

逸川は健治が一兵士として軍隊組織の中

で生活し弾丸をかいぐつた時期を過ぎた人間なら、その論理に真実性がでてきようと言う。

「案外、入営してうとうと頭の中がスツとするのと違うか、ジリジリした気持で深く考えぬことサ、Sのようにクラブの親睦会なんか計画するのも良いものだ」

「Sに悪かつたかな」

「彼にしても心境は複雑なんだ」

聖戦完遂の為に国民は自己を捨てている、それ以外の日常は無思想のままの雑然とした集合体が許されているのだとすれば同郷出身者のグループに肩を寄せあうのも良いかもしれない、別の学友が関東出身者の会を結成すると言つていたのを思いだが、それも無思想集合体に没入したい為かも知れぬ。

「ときに君のアニイはどうしてる？」

草津での彼の「エノツク・アーデン」論のことだ。

「妙な風向きになつたね、先日一度会つたが彼女も四国へ疎開するらしい」

「大変やないか、手はないの」

「仕方ないさ、何しろ無思想に徹しなければならんから」

彼は淋しそうに笑うが、その意味では健治もやりきれない、松山としの手紙を受け取つて以来、言いしれぬ孤独の中にいるわけだから。

四月も半ば、季節は春でも人の心は冷めたい冬が続いている、ヒットラーの自殺が報ぜられたのはドイツ軍の降伏が近いのを暗示した巨艦「大和」が孤軍奮闘の末、南九州沖で沈没する悲報も知った。

沖繩を失つてからそこを基地とした米軍の猛攻が諸都市を怯えさせる。帝都の機能は更に麻痺し、周辺の千葉、宇都宮、前橋、八王子、横浜、甲府、静岡等も焼土を増した。そんな中で学校は無気力な授業を続けたがある日突然に語学の草葉教授が学園から去つていった。

「君達は日本人であると同時に学問を究める学生だという自覚を才一に心がけるべきだ、学問を修める目的は人類の平和に貢献するのが主目的だから」

こうした彼の講義内容が配属将校の耳にはいった故かもしれない、老齢の教授が殆んどどの学園では世代の若々しい草葉教授の存在は何かにつけ目立ち専門学の講座以外は牡蠣のようにおし黙る老人達と違い彼は学生の中にとびこんでくれた。

「君達と我々教師とはもつと裸でつきあうべきだと思ふのだが」と口癖のように言つていた。教授は露骨に反戦を唱へはしなかつたが、国家よりもっと高い人道の立場を考へるべし、支配階級を是正する努力が必要だ、為に内外の情勢をより多く吸収せねばならぬ、語学は、その「かけ橋」だと強調し、どうかすると授業の大半をついやすが健治は彼の時間が最も楽しく感じたものだ。

「スパイが居たのではないか」と、ある友が言う。

「学生仲間にも危険なのが居るし、配属将校にゴマをする教授も多いからナ」

健治は「軍人狂」で特幹生として征つたYという学生の不敵な面構えを思つてみる、既に彼は居ないが彼に似たタイプ

の青年も意外と多いものだ。

はじめまして

京都府 足達啓子

わ い ふ に 思 う

「淋しくなるよ、ハカセが居ないと」
草葉教授は健治達が入学した最初の授業に開口一番、黒ロイドの眼鏡を光らせ、
「ボクは生れながらのハカセだよ」
そう言って黒板に自分の名を記す、
草葉博士。

「くさばひろし」と読みますが、若い頃から得をしました、尤も現在は本物の文学博士をやっと頂戴しましたが」
教室は明るく和み、殊更印象が深かった。

「まったく淋しくなる」
健治の溜息にその友は小声になる。

「君はハカセとウマがあつてたから格別だろ、これは誰かの陰謀だよ」
「違うだろ、先生の側から辞めてゆかれたように思うナ」

健治はそう応えておいた。たとえ誰かの策動で職をおろされたにしても、それを憎む気はない、人夫々に主義主張に向つての結果とすれば致し方ない、むしろ教授の辞職について何の反応も示さぬ連中、それを亦傍観する丈の自分自身に腹がたつてくる。

もう一度、先生と話してみたいと思う。それから幾日かが経ってドイツ無条件降伏のニュースが流れた。



わいふ、とても楽しみで、いつも届いた日に全部読んでしまいます。

個性豊かなわいふの皆様には、紙面から、いつも圧倒されております。

私は、結婚後もうすぐ二年になる25才の主婦です。家庭というしつかりしたイメージを持たぬまま、一緒に暮したい一心で結婚し、一年目に一児の母となりましたが、夫婦単位で行動する習慣が映画や本でおなじみなので無意識に自分もそういうもの、と決めていたらしく、つきあいのために外出がちの夫に、肩すかしを食わされているような感じで、わいふ130号の中西さんの文章は興味深かったことでした。家事と育児に要領悪くおわれながら、お互いに(夫と)納得のいく家庭生活を軌道にのせたい、と考えている段階で、まだ、おちついて社会に目を向ける余裕のない状態です。

人一倍感激屋で、小説(芹沢光治良・福永武彦などをよく読みます)を読んでも、すぐにひたりきつてしまい、悲劇などはもう他人事と思えず、涙が出てきてしまうほどですが、それだけに冷静さに欠け、論理性に乏しく、気が弱く……。

それでも、考えを、思いを、少しずつでも、文章にしながら、いろいろ勉強していきたいと思い、今日は思いきつて自己紹介させていただきます。

どうぞ、末永くおつきあいくださいませように。

会員になってから早10年になりました。初期の頃1〜2回送っただけでその後出そう／＼と思ひながら過ぎてしまいました。何かしよう／＼と思うだけで人生が過ぎてしまうのですからほんとに私はだめなわいふです。

でも「わいふ」によって、ずい分いろいろ／＼と参考になったりはけましになったり皆さんの成長にも少しはついでいかれたやうで得したことはかりです、いろいろの考えの方がいて雑然としていても「わいふ」の創られた目的とか姿勢に共感しているから会員なのだし一つの目標に集っている仲間意識みたいなのがあつて私自身が大多数の方達と同じ位の年代で共通の問題が多いとか続けて読んでいると各々の方達の性格や人間像が思い浮びその方と一方的ではありますが、つながりが出来たやうで、値段の点だけで他の誌とは比較できません。

わいふ会員になった10年前最初の子が生後3ヵ月頃でしたが何かやらなくてはと不安と希望で地域でも新婦人の会へ入りました、そちらの方も大した事もやらず過ぎましたが気安くつき合える友達が何人か出来、話し合いの日もあり心強いことです。今は支部会計係ですが、私は何かに精力的に打込むということもなく巾広く活動するということもなく、中

には多方面に活躍している人もあり、そんな人はやはり人間としても、とても成長している人が多くさすがと感心するのみです。

何周年目かの記念の時のアンケートに「養われている」という言葉についてどう思うかというのがありました。その時は別に深くも考えませんでした。その後「わいふ」の影響もあり特に高木さんですが、ある程度経済的に自立出来るということとは自分自身の幸せであると思うようになり、主人にも、もし私一人になつても困らないようにしてはと云われて、現在は8年位前に資格だけとった保母として事業の託児所にパート勤務で修業中ですが、年々頭も使い独立でやれることを40才位までに何とかと思ひ遅まきながら準備中です、これはほんとに、やらなくては／＼で月日が過ち年老いてしまったということのないやうにと思つています。



【お便り】

茨木市 坂元 礼子

皆様お元気でお過ごしでしょうか。

長い間皆様のご意見やお考えを拝読し、いつも参考にさせていただく立場で過して参りましたが、子供も大きくなりますと、ボツ／＼外へ引っぱり出されるようになり、いつまでも他人事のような態度をとってもおれなくなり、自分の考えも少し表へ出してみなくては、と思うようになりました。

別に他人様と変った考えを持っているわけではありませんが、同じ「よかれ」 pensando と思つてやる事でも、その人の根本的な考え方の違いで、結果的に大きくかわつてくることを多く経験いたしました。

何かをやっているうちに、あれが良くて、あれが悪いと、言い切れるものの少ないことも経験いたしました。

広い視野に立つて、常に正しく判断し、行動できる人間になりたいと思います。

勤めているわけでもなく、テレビもあまりみませんが、一日が短かくて困ります。あれもやりたい、これもやりたい、これも知っておきたい。欲深く、おかげで胃病がつきまといまふ。

妻・母、半人前、いったい何が出来来るのだろう、と我身が情なくなります。それでも悔いなく生きたいと自分なりに努めております。わいふの皆様の活躍はともども励みになります。今後ともよろしくご指導下さいませ。

枚方市 川中 重雄

次第に陽が短くなって来ましたので、

それだけでなく身辺多端で困っている折柄余計に家事の整理が出来なくなつてしまいました。只、日曜、祭日、及び土曜日はかりに期待して懸命に生きています。

畑の草刈きは遂に完了しましたので、すっきりしたところへ葱とほうれん草を植付け、アカシヤの枝を、梯子をかけて、遂に、これも切り払いました。

一年に二メートルも枝が伸びますこの木は街路樹としては、まずまずということですが、庭木とするのは、これは駄目。(今になつて後悔しています)。幹が直径20センチありますので、大変なものです。これの三本分の枝切り。そう簡単

にすむものではなかったのです。

生活面に於いて、閑暇を持て余すと云う生活形式程、愚かなものはないと、私は常に考えています。呢つとして、何もすることがないという生活を、私は決して望んではいいない。常に仕事に追いつ

て望んでいる私の生活、これはやがては健康に結びついていけるものであらうと思ひながら、この多端な毎日の生活を返つて有難いものだと考えたりしているのです。相当なる高齢になつても、このように、公私共忙しい生活というものは、そうざらには購るものでなからうと妙なところで、幸福感に浸つたりしています。

(若い頃に、ホンの一寸だけ勉強しておいたことが、老境に入つて効果が出て来たのではないかというような気持も、一寸丈けします。若い頃に余り遊び呆けて

いると、この逆な結果が出ていた筈だとも思われます。

雨の日は別として(然しこの雨の日は別に読んだり書いたりする余地を、私は見出している)晴れた朝など、燦々と降る朝日を浴びて朝露に濡れて生き生きとした畑に出てみる気持など、実に楽しいものです。

掃除も仕事のうち

徳島市 喜多 和子

A機工の朝は、全員が集まつて事務所の掃除をすることからはじまる。男も女も差別なく実に手際よく、きれいに掃除をするのである。その姿は、みていてとてもすが／＼しい。

掃除や雑用をしたら値うちがさがるやうに思つていらつしやる方があつたが、自分の仕事の場を清めてから仕事にかかることは、気をひきしめることにも役立っているのではないらうか。

Sさんにいただいた保険契約は、「掃除も仕事のうち」と、自らも掃除をなさる社長様のすばらしい思い出と共に、いつまでも私の心を去らない。



【会員移動】

【住所変更】

小川倍恵

〒658 神戸市東灘区御影本町八丁目

六十一

木下あづさ

〒569 高槻市牧田町一三一九

五一九号

岩田元子

〒351 埼玉県和光市白子一三二六

尾崎典子

〒562 箕面市桜ヶ丘二一七六〇

★辻村富佐子 転居先不明

★定松英子 退会

★前田治子 退会

毎月一回十日発行

原稿・誌代の送り先

〒665 宝塚市仁川宮西町1の72

「わいふ編集部」

発行人 高木由利子

発行所 わいふ発行所

振替口座番号 神戸19515

印刷所 百合写植印刷有限公司

誌代 一部 百円(送料25円)

原稿切 毎月二十五日

(以降翌月まわし)